

○本校の概要

本校は昭和2年(1927年)に東京都足立区東馬場小学校として開校以来、今年で99周年になる。児童生は1万人を超え、親子3代にわたって先輩が母校という地域の人も多い。校地は東急池袋線より徒歩5分、多摩川緑水公園からも10分の便利な場所にあり、多くは戸建てや小規模な集合住宅が建っている。大規模な集合住宅型はなく、今年度全校児童330名を擁した。児童は主体的に落ち着いた学校生活を送っている。本校の教育目標は「自ら学ぶ心、心豊かな子、たくましい子」であり、知、徳、体のバランスの取れた教育を目指している。今年度の重点目標は「自ら学ぶ心」を掲げ、将来本校に在籍している児童が、しっかりと自立して社会に役立つ人間になれるよう、キャリア教育を念頭に教育目標の実現に向け、全校職員が力を合わせて教育活動を行っている。

○自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	達成率	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 (A～Dのいずれかに○をつけてください。)																
								評価	人数	コメント														
プラン1 本校が掲げる教育目標に資する子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力を自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねで」と全教員が回答した。	3.4	「自分にはよいところがある」の間に肯定的な回答が85%以上	4: 100%	ネイティブの講師と連携して、児童の実態に即した指導を行うこと。指導教員とはコミュニケーションを積極的にとつてどのような授業をするのか事前に打ち合わせをして授業を進めることができている。ALTの学習指導の指導がとも参考になった。わらわらいを明確に授業プランを立て、児童のプリントの添削も丁寧。ALTと授業の流れを事前に打ち合わせすることで、担任も授業の狙いを明確にすることができた。また、パフォーマンステストや英語で発表するという機会が何度あり、子どもたちは英語でコミュニケーションをとることに、少しずつ抵抗がなくなっているように感じる。	A	8	・教職員の皆様のご尽力に感謝します。 ・コロナが減ったと思ったら、インフルなど感染症が次々に流行していく中で先生方の取組は、とても頑張っていると感じます。 ・(高学年に対して)自然災害についての情報共有とボランティア活動についての話し合い。 ・コミュニケーション能力は、社会に出た時に一番必要とされるものかもしれません。また、「自分にはよいところがある」と肯定的に答えられることは自分の自信につながると思います。														
			3:85%以上が回答した。								3.1	「自分にはよいところがある」の間に肯定的な回答が80%以上	3: 70.6%	理科の実験などは楽しく取り組むが、予想、結果、考察などの論理的思考を育成するまでに至らなかった。3年生の頃から、少しずつ取り組んでいる必要がある。校外学習や体験学習で様々な体験ができた。どの学年も意欲的であった。体験学習は今後も取り入れていく。	B	2	・低学年から日本語を英語の時間に使わない授業が一定数あると思うのでネイティブの講師と積極的に話し合い。 ・日本語の読み書き、本を読む習慣も大切にしたい。							
			2:60%以上が回答した。															3.5	「自分にはよいところがある」の間に肯定的な回答が70%以上	2: 60%	ICTの活用は、特別支援学級の児童が使用するのには様々な課題があるが、教員は活用した授業を行っている。(成果)ICT機器を使用して、わかりやすく授業を展開できた。	C		
			1:60%未満であった。																					
		4:全教員が行った。	2.9	「自分にはよいところがある」の間に肯定的な回答が60%未満	1: 60%	一校一取組や一学年一取組として、マラソン週間や読書週間を設けて、全校児童で取り組んでいる。一学年一取組は、あまり成果を感じられなかった。																		
		3:85%以上の教員が行った。								2.8	「授業が楽しい」の間に肯定的な回答が95%以上	4: 100%	ステップ学習シート、学習カルテ、授業改善推進プランなど、活用したり知らなかったりする項目が多く、積極的に活用している。学習カルテの活用ができていないように感じる。	A	7	・矢東小の児童・生徒の学力向上を期待します。 ・一人ひとりに向き合って、一人ひとりの意欲をアップさせることはとても難しいと思います。								
		2:60%以上が回答した。															2.9	「授業が楽しい」の間に肯定的な回答が90%以上	3: 80%	ステップ学習の達成度は、保護者に認知されているかわからない。	B	2	・1年でやるべきはその時に、5年生で達成すべきことを達成出来ることを目標にして、意欲を上げていくことを実施していきながら進めていこうと思うので、頑張ってもらって取り組んでほしいです。	
		1:60%未満であった。																						3.1
		4:対象となる全教員(全教員)で行った。	3	「授業が楽しい」の間に肯定的な回答が70%未満	1: 60%	改善プランはそれぞれの教科で作成するが、児童の課題に向けた取組を担当が意識して指導することが必要である。(結果)授業改善プランをもとに、日々の指導で気をつけるポイントを意識し、指導にあたることができた。授業改善推進プランを授業に生かすことができなかった。研究授業や授業観察のときに再度確認し、意識できるように。	D																	
		3:80%以上が回答した。								4	「授業が楽しい」の間に肯定的な回答が90%以上	4: 100%	小中一貫において、生活指導のルールを共有し、自校の生活指導のきまりを生かすことができた。	A	10	・友達を思いやる心の優しさを育ててください。 ・心の問題と心の育成は、日々の関わりが一番だと感じます。矢東小の先生方の日頃の働きがとても感謝します。 ・矢東小は特別支援学級があるからかと思うが、優しい子どもが多いです。								
2:60%以上が回答した。	2.8	「友達にやさしくしている」の間に肯定的な回答が90%以上															3: 92%	道徳の授業は行っているが、毎時間同じような授業展開になっているので、道徳推進教員の研修などを実施し、各担任の指導実践のための取組を行うこと。	B					
1:60%未満であった。																						3.3	「友達にやさしくしている」の間に肯定的な回答が80%以上	2: 71%
4:全教員が行った。			3.5	「友達にやさしくしている」の間に肯定的な回答が70%以上	1: 60%	毎週金曜日の生活指導会において、教員間で情報交換や情報共有を行っている。いじめの疑いがある場合は、いじめ防止・早期発見等のための取組を実施している。	D																	
3:85%以上の教員が行った。										3.7	「友達にやさしくしている」の間に肯定的な回答が70%未満	1: 60%	不登校児童等のケース会議や定期的な会議があり、連携がとりやすい。不登校対策委員や学年、養護教諭、SCなどと連携して児童や保護者への対応の仕方を組織的に考え、児童の問題行動について、常に周りの教員と情報共有を行っている。不登校及び別室登校児童についても、定期的に委員会を開き、実態を共有し、学校としての方向性を決めていくことができた。いじめが起きたら、不登校の児童への対応として、担任だけでなく、ケース会議を開き、組織で対応することができた。											
2:60%以上が回答した。	4	「友達にやさしくしている」の間に肯定的な回答が90%以上															4: 100%	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、正しい生活習慣についての意識啓発を行う。	A	9	・児童生徒の健全な成長を期待します。 ・矢東小の子どもは元気だと感じます。先生方の努力を感じます。 ・子どもが学校の授業、給食、何でも楽しいと思う気持ちが大切だと思います。			
1:60%未満であった。																						3.5	「友達にやさしくしている」の間に肯定的な回答が70%以上	3: 71%
4:全教員で行った。			3.2	「友達にやさしくしている」の間に肯定的な回答が60%未満	1: 60%	身体的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	C																	
3:80%以上の教員が行った。										4	保護者アンケート「子どもたちにとってわかりやすい授業をしていた」の間に肯定的な回答が90%以上	4: 100%	授業評価の質問項目の検討が必要だと思う。	A	5	・教職員の皆様の努力に敬意を表します。 ・先生方の連携もあるのではないかと感じています。								
2:60%以上が回答した。	2.9	「子どもたちにとってわかりやすい授業をしていた」の間に肯定的な回答が80%以上															3: 88%	授業改善セミナー等の研修により、若手教員の育成と主任教諭の指導力が磨かれている。	B	5	・安全安心教育は、授業参観や学校・地域教育連絡協議会での説明でもとてもわかりやすく、取り組みの姿が見える。 ・先生方の専門性を発揮してより良い授業を期待しています。			
1:60%未満であった。																						3.3	「子どもたちにとってわかりやすい授業をしていた」の間に肯定的な回答が70%以上	2: 80%
4:1回以上行った。			3.4	保護者アンケート「子どもたちにとってわかりやすい授業をしていた」の間に肯定的な回答が70%未満	1: 60%	特別支援教育コーディネーターとして、担任からの情報を得て、校内委員会で検討することができた。課題としては、特別支援教育についての研修を充実させる必要がある。	D																	
3:学期に2～3回行った。										4	保護者アンケート「教育活動の様子をわかりやすく伝えられているか」の間に肯定的な回答が90%以上	4: 100%	ホームページの充実をさせるためには、公開の仕方や内容を校内で共有が必要。本格的に行うのであれば、組織の一つとして役割を位置付けるとよい。週1回程度、学級便りや学年の様子をお知らせしたい。また、保護者会でも動画などで子どもたちの活動の様子を伝えたい。	A	8	・地域全体で児童・生徒の健全な育成を見守ります。 ・開かれた教育をしよう！という先生方の気持ちを感じます。 ・協議会の説明にPCを活用する等、より理解しやすく工夫されています。								
2:学期1回以上更新した。	3.2	「子どもたちにとってわかりやすい授業をしていた」の間に肯定的な回答が80%以上															3: 86%	地域教育連絡協議会において、児童・生徒の発達の具体的な資料を作成して、詳細に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	B	2	・今、本当に学校は大変です。学校だけで教育することは無理な時代になってきました。家庭の役割、地域の役割をよく考えて子どもたちがいつも笑顔でいられるように少しでも力になればと思います。			
1:更新しなかった。																						3.1	保護者アンケート「教育活動の様子をわかりやすく伝えられているか」の間に肯定的な回答が70%未満	1: 60%
4:毎月1回以上行った。			3	保護者アンケート「教育活動の様子をわかりやすく伝えられているか」の間に肯定的な回答が70%未満	1: 60%	子ども食堂の代表とのつながりからコーディネーターを紹介していただき、総合的な学習の時間の授業を計画することができた。(課題)地域との連携をした授業の展開を毎月考えることはできなかった。児童の実態や教科の特性を見極め、連携を図っていく。	D																	
3:学期1回以上行った。										4	保護者アンケート「教育活動の様子をわかりやすく伝えられているか」の間に肯定的な回答が70%未満	1: 60%	ホームページで活動の様子を公開されていないので、日々の様子が見えづらく、協議会で先生が様子を見せたいという声が出ています。協議会でも先生が様子を見せたいという声が出ています。協議会でも先生が様子を見せたいという声が出ています。											
2:年1回以上行った。	1	保護者アンケート「教育活動の様子をわかりやすく伝えられているか」の間に肯定的な回答が70%未満															1: 60%	ホームページで活動の様子を公開されていないので、日々の様子が見えづらく、協議会で先生が様子を見せたいという声が出ています。協議会でも先生が様子を見せたいという声が出ています。						
1:実施しなかった。																								

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。